

株主・投資家の
皆様へ

Creativity & Challenge

平成17年7月期(第44期)事業報告書

平成16年8月1日から平成17年7月31日まで

JASDAQ

証券コード：6267



包装システムのトータルプランナー

ゼネラルパッカー株式会社

(単位：百万円)

	平成13年7月期 (第40期)	平成14年7月期 (第41期)	平成15年7月期 (第42期)	平成16年7月期 (第43期)	平成17年7月期 (第44期)
売上高	3,268	3,414	3,829	3,983	3,726
営業利益	154	222	337	401	240
経常利益	159	233	345	412	245
当期純利益	80	109	197	249	152
総資産	3,659	3,757	3,752	4,463	4,870
株主資本	1,904	1,994	2,153	2,587	2,644



代表取締役会長 原 淳 代表取締役社長 梅森 輝信

株主・投資家の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃は当社に温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

この度、平成17年10月25日に開催されました第44期定時株主総会及び同日開催の取締役会をもちまして、原淳が代表取締役会長に、梅森輝信が代表取締役社長に就任いたしました。経営体制の一層の強化、充実を図り、皆様のご期待に応えられるよう企業価値向上に向け、専心努力してまいります。

ここに、当社第44期の事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶をかね、営業の概況等についてご報告申し上げます。

◆当期業績の総括

当期の包装機械業界は、大企業を中心として設備投資需要が増加し、全体として景況感は回復基調を示す一方、中小企業の設備投資意欲は低調のまま推移しております。また、最大需要先の食品業界においては、一部の業種には設備投資は増加していますが、昨年の記録的な猛暑・自然災害の多発の影響とともに、食品の消費の先行き不透明感等により、全体としては設備投資の慎重姿勢が続いております。

このような経済環境の中で、システム受注を積極的に展開し、受注高は前期比で大きく上回ったものの、設備投資時期のずれ込み等により、売上、利益ともに厳しい決算となりました。

◆新中期経営計画を再スタート

当社は、当期より「上場企業としての社会的基盤固めの時期」と位置づけ、中期経営計画に基づき、各施策を推進中でありま。しかしながら、当期の経営成績において、中期利益計画の第一期目の計画を達成できなかったことから、次期（第45期）を「再スタートの期」として、平成20年7月期を最終年度とする経営計画の達成を最重要課題として位置づけ、以下の具体的な課題に対処してまいります。

- ①営業本部4部体制の確立と東京営業部の戦力補強等により、営業体制の強化を図る
- ②海外市場の開拓・販売チャンネルの拡大を図る
- ③開発体制の強化と新機種開発のスピードアップを図る
- ④高品質体制の強化を図る
- ⑤内部統制システム・コンプライアンス・リスクマネジメント体制の強化に取り組み、コーポレート・ガバナンスの強化を図る
- ⑥新人事制度の構築と、人材確保・人材育成の強化を図る

以上に掲げた事項を中心にして、中期経営計画の達成に向けた施策を強化し、一層の業績の向上と企業の健全性に努めてまいります。

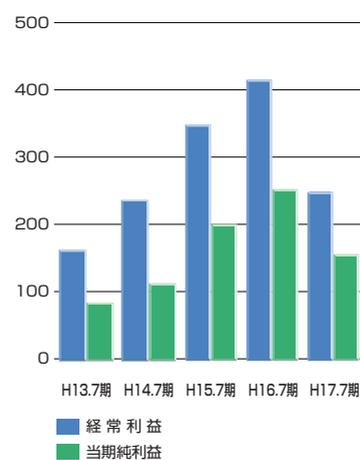
株主の皆様におかれましては、今後とも、一層のご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成17年10月

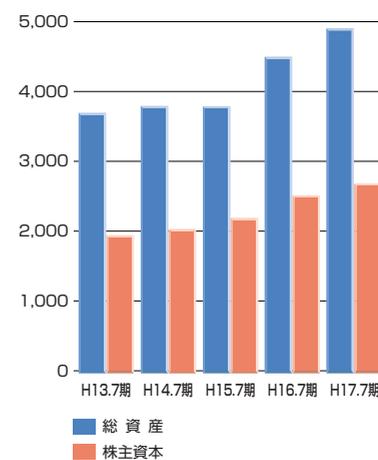
■売上高・営業利益
(単位：百万円)



■経常利益・当期純利益
(単位：百万円)



■総資産・株主資本
(単位：百万円)



◆業績全般の概況

当社の営業活動におきましては、主力機種モデルチェンジ機と高性能な新機種を開発して市場に投入する一方、主力とする食品業界に加え、高齢化社会の到来や健康志向・ペットブームの高まり等から、設備投資需要の増加が期待される医療分野・健康食品関連業界・ペットフード業界等への積極的な受注活動を推進してまいりました。また、大企業を中心とした大型設備投資のシステム受注の強化に努めてきたことから、次期売上計上予定の大型受注実績もあり、受注高は前期に比較して大幅な増加となりました。

一方、昨年の自然災害等の影響もあり設備投資時期のずれ込み等により、上半期の売上高が大幅に低迷したことに加え、全体として当期に売上計上が可能な短納期案件及び中小型案件の需要が低調に推移し、売上高は厳しい状況が続きました。

この結果、当期の売上高は、前期に比べて中小型案件の販売台数が減少したことから、3,726百万円（前期比6.4%減）となりました。また、売上高が低迷する中で販売費及び一般管理費を抑制しましたが、高粗利益機種の販売台数減少とともに低

粗利益機種もあり売上総利益率が減少したことから、経常利益は245百万円（前期比40.5%減）、当期純利益は152百万円（前期比38.9%減）となりました。

◆製品の売上状況

前期に新機種として、ガゼット袋・スタンド袋・チャック付四方袋兼用給袋自動包装機700FZ型、ダブルパック対応ガス充填自動包装機GS33型等の新機種を完成させましたが、当期におきましても、高速チャック付製袋自動包装機6700C型の新機種を完成させました。

また、新型給袋装置を開発し、給袋自動包装機的主力機種2000型に搭載してモデルチェンジを図るとともに、その他機種へも搭載して、商品力の強化も図りました。

当期は、低価格機種を中心に既存機種の販売が低迷したことから、機械合計の販売台数は151台（前期比30台減）となりました。

◆品目別売上高の状況

給袋自動包装機は、低価格機種の販売が低迷したことから、売上高は1,854百万円（前期比4.7%減）となりました。

製袋自動包装機は、高価格の新機種の販売が寄与しましたが、前期に比べて販売台数が減少したことから、売上高は662百万円（前期比2.5%減）となりました。

ガス充填自動包装機は、前期に比べて高価格の新機種の実績がなかったことから、平均売価が減少するとともに、販売台数が減少したため、売上高は166百万円（前期比47.8%減）となりました。

この結果、機械合計の売上高は2,684百万円（前期比8.9%減）となり、包装関連機器等は、少額機器の販売台数が減少したことから、売上高は409百万円（前期比19.5%減）となりました。

また、保守消耗部品その他は、給袋自動包装機を中心とした機械の買換需要等が低迷した反面、高額な保守案件の受注件数が増加したため、売上高は632百万円（前期比19.5%増）となりました。

◆次期の見通し

今後の見通しにつきましては、包装機械業界は、個人消費は持ち直しているものの、食品の消費については厳しい状況が続

いていることから、最大需要先の食品部門の設備投資意欲は依然として慎重姿勢が続くものと予想されます。

このような状況下で当社といたしましては、営業体制の強化と海外市場の開拓・販売チャンネルの拡大に取り組むとともに、設備投資需要が期待される大企業及び医療分野・健康食品関連業界・ペットフード業界等を中心として、新規開拓・深耕を推進しながら受注の拡大に努めてまいります。

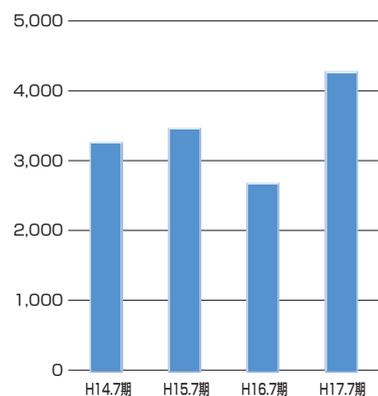
また、中長期的な成長基盤づくりを強化するため、展示会を中心とした販売促進投資・研究開発投資・人材投資等の戦略的な投資の増加を図ってまいります。

設備投資につきましては、今後の業容の拡大を見据えたうえで、次期に本社工場隣接地の取得を予定しております。これに伴い、租税公課等の諸費用の発生を業績予想に見込んでおります。

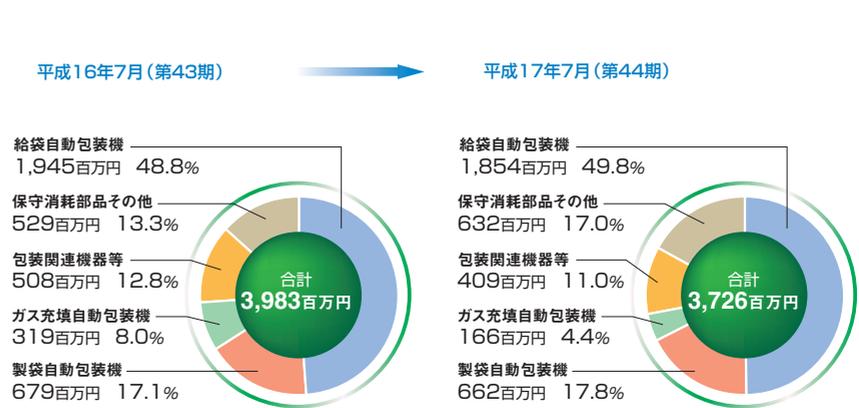
以上により、次期の業績予想といたしましては、売上高4,300百万円（当期比15.4%増）、経常利益300百万円（当期比22.2%増）、当期純利益177百万円（当期比16.4%増）を予想しております。

■ 機械受注高

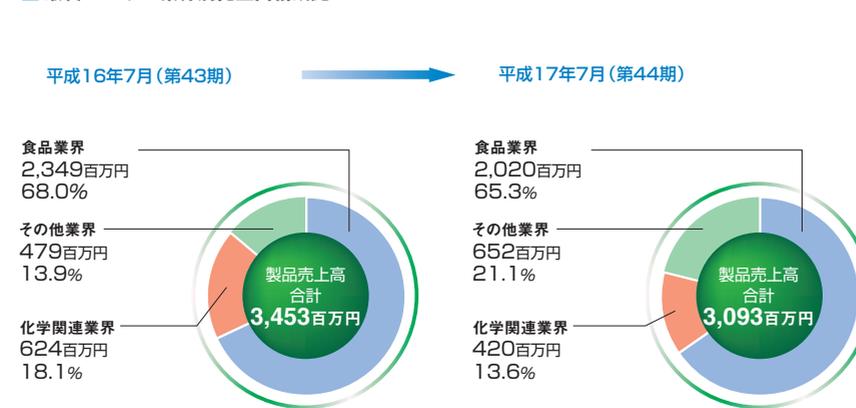
(単位：百万円)



■ 品目別売上高構成比



■ 最終ユーザー業界別売上高構成比



(注) 1. 製品売上高合計は、給袋自動包装機、製袋自動包装機、ガス充填自動包装機、包装関連機器等の売上高合計であります。
 2. 食品業界には、精米・製氷・製粉・饅頭業界等を含めております。
 3. 化学関連業界には、製薬・化粧品業界のほか、健康食品関連についても含まれております。
 4. その他業界は、機械業界、受託包装業界、種苗業界、ペットフード業界等です。

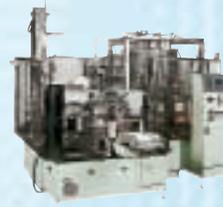
給袋自動包装機

粉末から固形物まであらゆる充填物(米菓、キャンデー、ビスケット、スナック食品、穀類、豆類、ふりかけ、パン粉、各種海産物、小麦粉、きな粉、だんご粉、うま味調味料、粉末薬品、機械・電気等の部品、その他袋詰可能な物)に対応できます。また、対象物、袋サイズ、袋形態の幅広いニーズに対応が可能です。



ガス充填自動包装機

不活性ガス封入(花かつお、コーヒー、バターピーナッツ、お茶、ビーフジャーキー、カットチーズ、生パン粉等のガス充填包装対象物)により商品のシェルフライフを延長させることが可能です。



製袋自動包装機

充填物は、給袋自動包装機と同様ですが、小袋の高速包装から大袋用包装(精米、業務用スパゲティ、顆粒洗剤、うま味調味料、輸液バック等)までの対応が可能で、包材はコストの安い各種のフィルムを使用できます。また、包装システムライン化のための後工程機械との連動に適しています。



包装関連機器

当社包装機をシステム化するための周辺機器及び顧客の生産に必要な他社包装関連機器を取扱うことで、幅広い包装ラインの合理化・省力化に対応が可能です。



トータル包装システムの受注を強化・拡大

包装機械業界では、搬送から計量・充填、包装、検査、梱包まで全ての工程を一貫したシステムで提案する「トータル包装システム」へと市場ニーズが移行しています。

当社は、あらゆる企業から最適な製品を選びすぐり提案できる、独立系企業としての強みを活かして、平成8年にシステム営業課を新設、平成16年にはシステム営業部へ組織変更しシステム提案力を強化しています。また、新社屋南館にプレゼンテーション設備を設け、機密保持が必要なシステム案件について、ユーザー立会いテスト・試作機開発等に活用しています。

当期は、組織変更及びプレゼンテーション設備活用の効果もあり、自社包装機を含めたトータル包装システムの受注が大幅に増加しました。特に、1案件で過去最高の約5億円の受注(売上は来期に計上)に成功し、今後の受注拡大に向け大きな弾みとなりました。



■システム受注比率



(注)システム受注:トータル包装システム(自社機+システム)、システム単独の総計

新製品紹介

新開発の給袋装置を搭載した給袋自動包装機

GP-2000型Uシリーズ



安定した給袋包装で定評のあるGP-2000型をさらに進化させ、多品種生産時の段取り替えを容易にするとともに、新開発の給袋装置を搭載し生産性を大幅に向上しました。また、包装工程の異物混入対策として、包装機の塗装レス化を実現しました。あらゆる業界に対応するため、買換需要促進、新規開拓先の拡大等を積極的に展開してまいります。

高速チャック付製袋自動包装機

GP-6700C型



W製袋・W充填包装で、毎分100袋の高速包装を実現し、最高のコストパフォーマンスをご提供いたします。また、GP-2700C型で培ったチャック付製袋技術をさらに進化させるとともに、消費者に優しい袋コーナーRカットを可能にしました。キャンデーメーカーへ2台納入し、引き続き大手キャンデーメーカーを中心に拡販を図ってまいります。

■貸借対照表

科目	当期(第44期) 平成17年7月31日現在	前期(第43期) 平成16年7月31日現在
資産の部		
●流動資産	4,184,183	3,807,073
現金及び預金	1,538,422	1,534,295
受取手形	331,533	251,999
売掛金	1,226,623	1,238,963
たな卸資産	790,114	684,773
繰延税金資産	10,227	27,332
未収入金	196,948	64,601
その他	90,314	5,107
固定資産	685,826	655,933
有形固定資産	497,871	482,058
建物	334,738	222,628
土地	135,882	135,882
建設仮勘定	—	112,505
その他	27,249	11,041
無形固定資産	2,418	2,497
投資その他の資産	185,536	171,377
資産合計	4,870,009	4,463,007

POINT 1

当期末の流動資産は、7月に売上高が集中したこと等により、売上債権及び未収入金等が増加したことから、前期末比377百万円の増加となりました。

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科目	当期(第44期) 平成17年7月31日現在	前期(第43期) 平成16年7月31日現在
負債の部		
●流動負債	1,933,460	1,591,791
支払手形	1,130,410	784,590
買掛金	407,487	334,453
賞与引当金	23,643	23,186
その他	371,919	449,561
固定負債	292,195	283,972
退職給付引当金	26,585	27,837
役員退職慰労引当金	265,610	256,135
負債合計	2,225,656	1,875,763
資本の部		
資本金	251,577	251,577
資本剰余金	282,269	282,269
利益剰余金	2,099,524	2,045,244
株式等評価差額金	11,638	8,808
自己株式	△ 655	△ 655
資本合計	2,644,353	2,587,244
負債資本合計	4,870,009	4,463,007

POINT 2

当期末の流動負債は、7月の売上高集中に伴う仕入債務等が増加したことから、前期末比341百万円の増加となりました。

■損益計算書

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科目	当期(第44期) 平成16年8月1日から 平成17年7月31日まで	前期(第43期) 平成15年8月1日から 平成16年7月31日まで
経常損益の部		
営業損益の部		
営業収益	3,726,480	3,983,212
売上高	3,726,480	3,983,212
営業費用	3,485,928	3,581,697
売上原価	2,727,082	2,800,304
販売費及び一般管理費	758,846	781,393
営業利益	240,551	401,515
営業外損益の部		
営業外収益	8,687	43,461
営業外費用	3,606	32,317
●経常利益	245,632	412,660
特別損益の部		
特別利益	—	6,403
特別損失	100	—
税引前当期純利益	245,531	419,064
法人税、住民税及び事業税	80,268	182,950
法人税等調整額	13,040	△ 12,964
当期純利益	152,222	249,078
前期繰越利益	163,277	103,151
中間配当額	26,975	17,985
当期末処分利益	288,524	334,244

POINT 3

経常利益は、前期比40.5%減少しました。これは主として、売上高が前期比6.4%減少した中で、販売費及び一般管理費を抑制しましたが、高粗利益機種の販売台数減少とともに低粗利益機種もあり、売上総利益率が減少したことによるものであります。

■キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科目	当期(第44期) 平成16年8月1日から 平成17年7月31日まで	前期(第43期) 平成15年8月1日から 平成16年7月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	166,562	309,911
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 99,849	△ 102,289
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 62,586	213,309
現金及び現金同等物の増加額	4,127	420,931
現金及び現金同等物の期首残高	1,534,295	1,113,364
現金及び現金同等物の期末残高	1,538,422	1,534,295

■利益処分

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科目	当期(第44期) 平成17年7月期	前期(第43期) 平成16年7月期
当期末処分利益	288,524	334,244
合計	288,524	334,244
これを次のとおり処分します。		
利益配当金	26,975	35,967
	(1株につき6円)	(1株につき8円)
役員賞与金	30,000	35,000
(うち監査役)	(1,000)	(1,000)
別途積立金	50,000	100,000
次期繰越利益	181,549	163,277

(注) 平成17年4月8日に26,975,400円(1株につき6円)の中間配当を実施いたしました。

会社の概要

CORPORATE INFORMATION

株式情報

STOCK INFORMATION

■ 会社概要 (平成17年7月31日現在)

商号 ゼネラルパッカー株式会社
 英文社名 GENERAL PACKER CO., LTD.
 設立 昭和36年12月
 資本金 2億5,157万7千円
 事業内容 各種自動包装機・荷造用機械及び
 周辺装置の製造・販売・修理、
 それに附帯する一切の業務
 従業員数 97名
 本社・工場 〒481-8601
 愛知県西春日井郡西春町大字宇福寺字神明65番地
 Tel. (0568)23-3111(代)
 Fax. (0568)22-3222



本社

東京営業部 〒101-0045
 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8
 神田木原ビル4F
 Tel. (03)3256-3891(代)
 Fax. (03)3256-3893

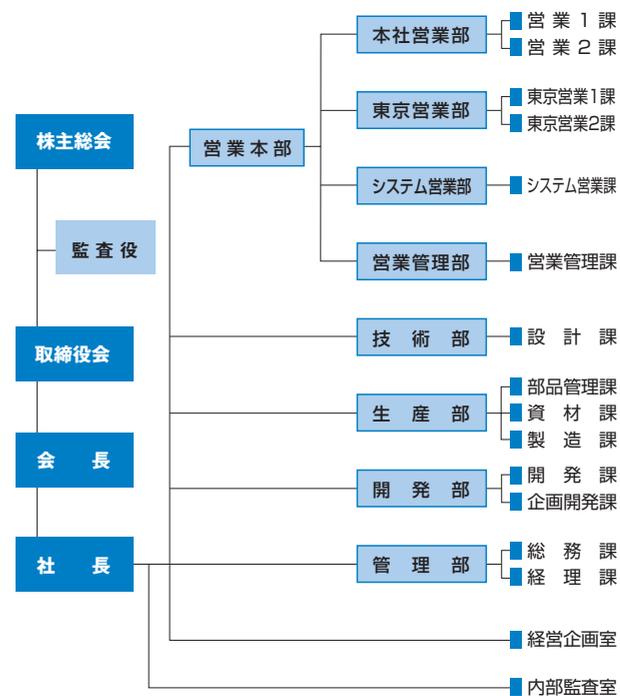


東京営業部

■ 取締役及び監査役 (平成17年10月25日現在)

代表取締役 会長	原 淳	
代表取締役 社長	梅 森 輝 信	営業本部長
専務取締役	池 澤 晃	管理部長
常務取締役	倉 知 泰 助	生産部長
常務取締役	島 末 孝 法	開発部長
取締役	工 藤 誠 一	技術部長
常勤監査役	山 本 勝 巳	
監査役	村 橋 泰 志	
監査役	西 浦 道 明	

■ 組織図 (平成17年10月25日現在)



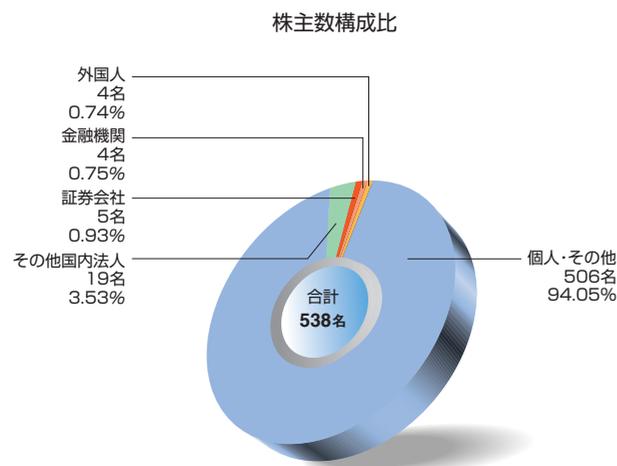
■ 株式の状況 (平成17年7月31日現在)

会社が発行する株式の総数 14,000,000株
 発行済株式総数 4,497,000株
 株主数 538名

大株主

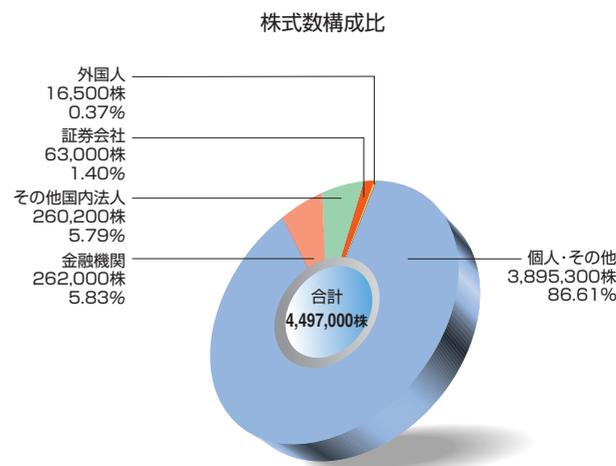
株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
ゼネラルパッカー従業員持株会	588,000	13.09
高野 まさ子	500,000	11.13
原 淳	367,000	8.17
りそなキャピタル株式会社	199,000	4.43
株式会社りそな銀行	196,000	4.36
高野 季久美	182,000	4.05
田中 かな	182,000	4.05
安江 禎治	138,900	3.07
原 利子	112,000	2.49
原 晋一郎	112,000	2.49

■ 所有者別分布状況



■ 株主メモ

決算期 7月31日
 定時株主総会 10月
 基準日 7月31日
 その他あらかじめ公告する一定の日
 配当金受領株主確定日 利益配当金 7月31日
 中間配当金 1月31日
 名義書換代理人 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号
 日本証券代行株式会社
 同事務取扱場所 〒460-0008
 名古屋市中区栄三丁目3番17号
 日本証券代行株式会社 名古屋支店
 Tel. (052)261-1781(代)
 同取次所 日本証券代行株式会社本支店
 公告掲載新聞 日本経済新聞



ホームページをご活用ください。

当社ホームページでは、
新着情報、会社情報、商品情報、
IR情報等、様々な情報をご提供しています。
今後も皆様にお役立ていただけるよう
掲載情報の一層の充実を
図ってまいります。



<http://www.general-packer.co.jp/>

 包装システムのトータルプランナー
ゼネラルパッカー株式会社

本社・工場

〒481-8601 愛知県西春日井郡西春町大字宇福寺字神明65番地
Tel. (0568)23-3111(代) Fax. (0568)22-3222

東京営業部

〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F
Tel. (03)3256-3891(代) Fax. (03)3256-3893



環境に配慮した「大豆油インキ」を使用しています。



古紙配合率100%再生紙を使用しています。